

<健康安全部会 健康・食育チーム>

【児童生徒の実態】

基本的な生活習慣が定着している児童生徒が見られる一方、就寝時間が遅くなり、生活習慣の乱れへとつながっている児童生徒も少なくない。就寝時間が遅くなることで朝起きられず、朝食欠食につながっている児童生徒の割合が数年前から増加傾向にある。また、コロナ禍における黙食などの影響から、食習慣や食文化、マナーへの関心が乏しくなっている。

【部会のねらい】

基本的な生活習慣の定着や食への関心を高めることで、心身共に健康で自分を大切にすることができる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・立腰指導の継続 ・生活習慣見直しweekの実施…チェックカードの活用、評価方法の見直し、活用方法の検討 ・ほけんだより作成…小中一貫コーナー ・食育の充実(給食週間を含む)…栄養教諭による出前授業の実施、食事のマナー、掲示物や動画の活用等)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣見直しweekは継続して取り組んでいるため、保護者の協力を得やすい。自身の生活習慣を振り返る児童生徒が多くみられた。 ・本年度は生活習慣チェックシートの評価方法を見直し、振り返りがしやすいよう改善を図った。教師側としても集計がしやすくなった。 ・保健だよりの小中一貫コーナーでは歯科をテーマに取り組んだ。健康診断の結果や取り組み内容など児童生徒の実態を載せ、保護者に生活習慣上の問題点に気付いてもらえるよう工夫した。児童生徒や保護者への情報提供の場として活用できた。 ・栄養教諭による出前授業を実施した。実施できなかった学校も、給食委員を中心にお昼の放送で給食の残量を知らせたり、給食時のマナーなどの呼び掛けを行うことができた。 ・配膳図やはしの持ち方についての掲示資料を栄養教諭が作成し、共通の資料を用いて各学校で活用することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣チェックの結果、メディア機器の使用時間に課題が見られたが、幼少期からの習慣や保護者の意識が影響を与えている可能性が高いため、メディア機器の使い方についての取組を検討する。 ・保健だよりの配信方法は学校によって異なるため、児童生徒や保護者に情報が届くよう工夫が必要である。(掲示物として活用する等) ・児童生徒の食事マナーがどの程度向上したか把握することができなかったため、取り組み後の変化を把握するための方法を検討する。 ・食育の充実において、家庭や地域と連携した活動ができなかったため、よりよい食育の充実のために連携方法について検討する。